

ビジネス用ビデオ会議をより快適に

ベンダーやテクノロジーの垣根を越えて

ビジネス上のコラボレーションにおいて、ビデオ会議は新たな常識となっています。こうした人気の高まりにより、ユーザーは社内チームや世界中の外部組織とビデオで会議を行い、協働する機会が増えています。しかし、こうした会議をスケジュールし、参加し、管理することには非常に多くの課題があります。このガイドは、次のような組織やユーザー向けのソリューションとなるよう準備されました。

- 異なる会議プラットフォームによる相互運用性の問題を抱えている
- Cisco/Poly SIPデバイスを活用している
- H.323、SIP、WebRTC（Teams、Zoom、Googleなど）などの通信プロトコルが混在している
- スケジュールや会議管理にOutlookやGoogleを活用している
- オンプレミス、ハイブリッド、クラウドなど、さまざまなビデオネットワークやインフラ・テクノロジーが混在している

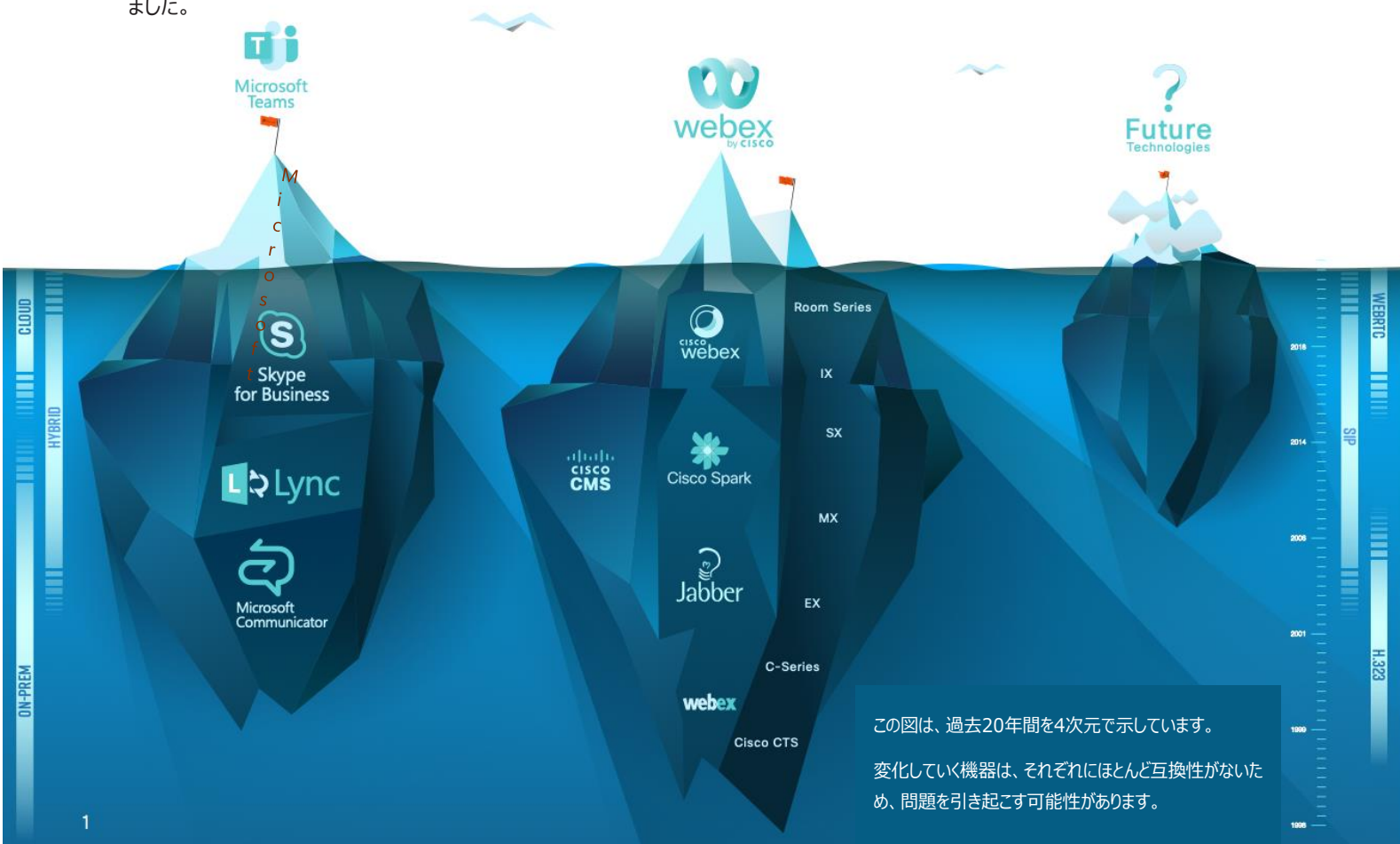
加えてユーザーの皆様は、異なるベンダーや技術が使われていても効率良く、シンプルなワークフローによって、すべての会議を時間通りに開始したいと考えていることでしょう。

互換性のない機器

ビデオ会議に関する課題

様々な会議プラットフォームの動向は、シングルベンダーによる接続へと移行しているため、接続が不安定な場所が生じるようになっていきます。そのため、ユーザーが他のサービスプラットフォーム用に構築されたテクノロジーを使用し、異なるプラットフォームと連携することが難しい場合があります。

さらに、コラボレーションプラットフォームやデバイスは3～5年ごとに更新されますが、こうした変化には従来から互換性の問題が生じていました。



ほとんどのベンダーは、最新のソリューションを宣伝・販売していますが、それは「氷山の一角」です。水面下には、多くの組織が実際に対処しなければならない課題が山積しています。

上記の氷山のイメージでは、Microsoft TeamsとWebex by Ciscoの2大ベンダーのみが様々なモデルを展開していますが、55%の組織が3つ以上の会議サービスを利用しており*、状況がさらに複雑になっていることが分かります。さらに、将来の技術の発展に伴って、互換性が不明確な新しい会議ベンダーや新商品が登場した場合、複雑性や不確実性が増す可能性があります。

妥協しがちなビデオ会議

妥協の結果

互換性のない、複数のビデオ会議プラットフォームがあまりにも多く存在するため、多くのビジネスミーティングがうまくいかず、ユーザーの不満、生産性の低下を招き、損失を被る可能性が指摘されています。しかし、ビデオ利用者や会議参加者が望むのは、プラットフォーム、インターフェース、招待リンク、パスワード、その他の複雑なビデオ会議の設定などを心配することなく、時間通りに会議室に入り、時間通りに会議が開催されることです。

「会議を始めるまで
12分かかります」

様々な関係者に与える影響

	課題	結果
ユーザー	- 会議の日程調整や参加に手間取る。	- 会議への参加が遅れる、または全く参加できない。
	- チケット/サポートクレームによる作業負荷	- サポートに無駄な時間を費やす
管理者	- 複数システムの維持管理	- 複数のプラットフォームとライセンスにかかる費用
組織	- 新しいハードウェアへの移行	- 十分に機能しているハードウェアとライセンスを取り替えるための費用
	- 新しい会議サービスを導入する際のユーザートレーニング	- 従業員の不満

ビデオ会議をシンプルに開催する



Synergy SKY CONNECTは受賞歴のあるソリューションで、種類やモデルに関わらず、任意のSIPビデオエンドポイントが、すべてのMicrosoft Teams、Google、Zoomミーティングに接続できるようにサポートします。アップグレードは必要なく、既存のセットアップを最適化するだけで使用することができます。使い方は簡単で、ユーザーのトレーニングも必要ありません。

Synergy SKYは、独自のコラボレーション機器やミーティングプラットフォームを販売しない、唯一の相互運用性ソリューションプロバイダーです。このサービスを活用すると、既存の導入システムとの相乗効果を期待できます。

Synergy SKY

が提供する独自のメリット



02. サポート

従来のデバイスと新しいデバイスの両方をサポート。

- 「サポートされているテクノロジー」を参照のこと



04. Cisco上のネイティブ Teams機能

Cisco/Polyデバイスで、Teamsのクライアントと同様の体験を得ることが可能。Ciscoデバイスでの挙手や参加者リストなど、Teams間でのやり取りを可能に。



06. アプリケーションを 共有

ホワイトボードやPowerPointライブの情報を、Teamsのクライアントから必要なビデオ機器に共有することが可能。



01. 独立性

独自のエンドポイントや会議プラットフォームを持たない唯一のソリューション。既存のデバイス、会議プラットフォーム、カレンダーを統合。



03. Teams, Google, Zoom & Webex

CiscoとPolyの両方のプラットフォームでバックトゥバック会議（会議終了後直ちに次会議が開催される）を行う。



05. 参加

SIPデバイスの緑色のボタンで参加でき、自動接続/切断が可能。



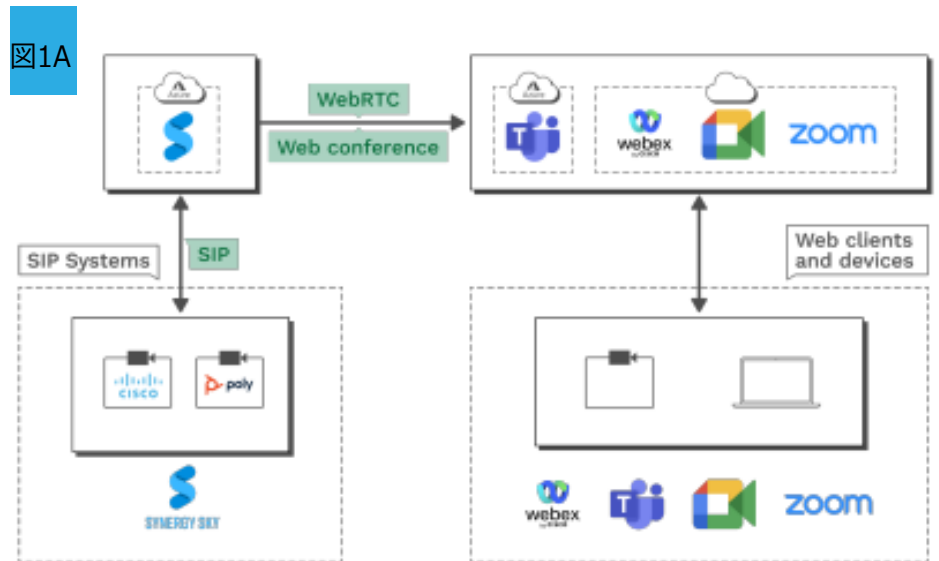
07. アドホック予約

TeamsやWebexを使用して、Ciscoデバイスから直接ビデオミーティングを予約できる。

SYNERGY SKY CONNECTに関する

サービスの概要

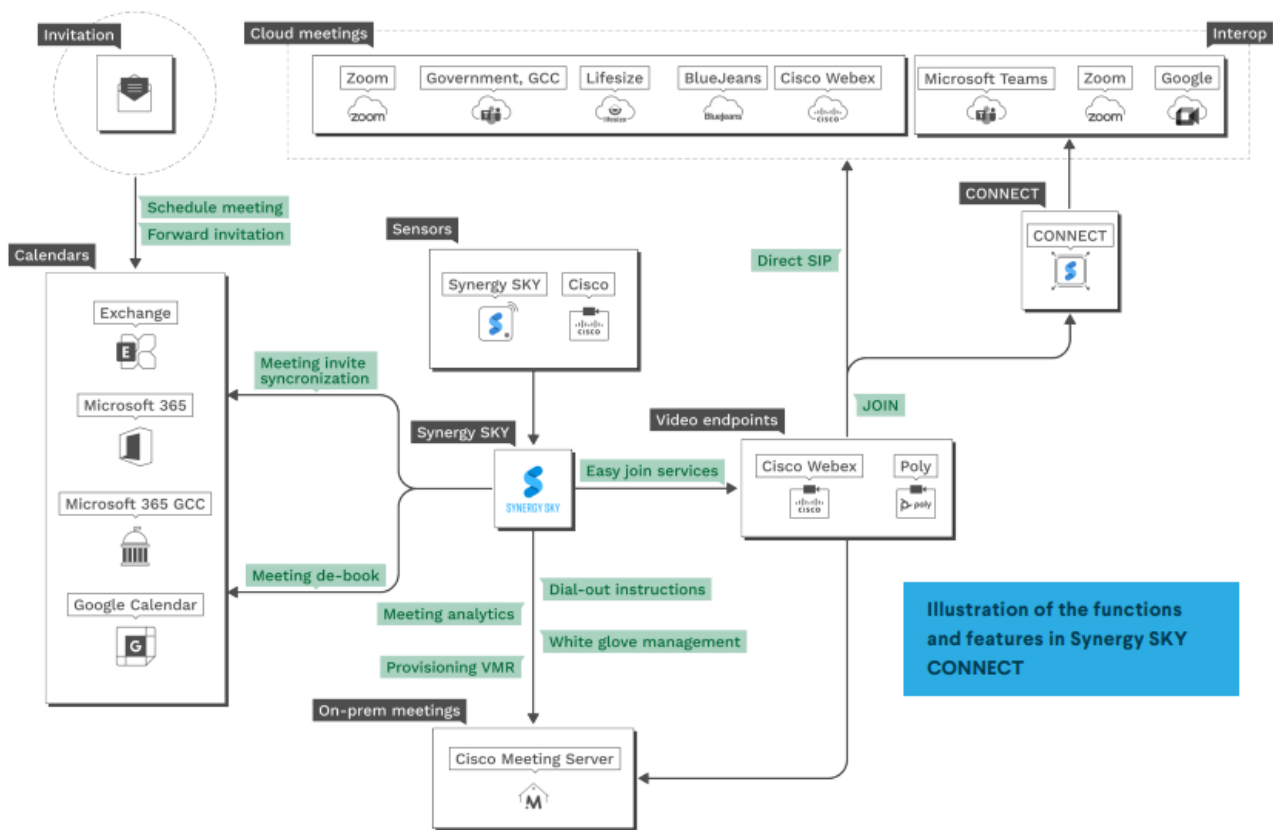
CONNECTには2つのコンポーネントが含まれており、クラウドベースの相互運用性サービスと、自己ホスト型のManagement Suiteがあります。この二重の実装により、クラウドサービスの規模と柔軟性を提供しながら、データのプライバシーを確保することができます。SIPからWebミーティングへの相互運用ゲートウェイ(図1Aを参照)コンポーネントは、Microsoft Azureにホストされ、Microsoft Teamsプラットフォームに近接しており、高品質な音声およびビデオのための最適化された環境を提供します。



ビデオエンドポイント、および会議室の自己ホスト型Management Suiteは、カレンダー、会議室、およびビデオ会議プラットフォーム全体にわたるコラボレーション体験と管理を統合します。加えてManagement Suiteは、ビデオ運用チームの会議コントロールや、会議の知見とプラットフォーム利用状況に関する分析レポートも提供します。

Synergy SKYのManagement Suiteは、すべてのビデオ会議の**カレンダー**を常にモニタリングしています。つまり、エンドユーザーは既存の動作を変更する必要はありませんが、よく知られているネイティブの会議スケジュール、および転送の機能を通じて、出席者を **招待**し会議室を割り当てることができます。

Synergy SKYは、お客様のCisco Meetings Server (CMS : Ciscoミーティング・サーバー) が主催する特定の種類の**オンプレミス型会議**に対して、ビデオ会議を自動的に設定する機能を備えています。こうしたビデオ会議は必要に応じてホスティングサーバーで管理、および無効化することができます。また、これらの会議では、会議自体にダイヤルアウト機能を割り当てることも可能です。



Synergy SKYのManagement Suiteは、CiscoおよびPolyのビデオエンドポイントに対する、さまざまな統合機能を通じたシンプルな参加サービスも管理しています。Ciscoデバイスの場合、これはデバイスのAPIまたはCisco Webex Hubを介して提供されるAPIのいずれかになります。Polyデバイスの場合、Management Suiteはデバイス自体が、会議スケジュールを取得するためのAPIを提供します。すべてのビデオエンドポイントは、オンプレミス型会議とクラウド型会議、どちらの会議に参加するか、常に最新かつ正確に把握することができます。これにより、異なる会議室に入った際に、エンドユーザーがシンプルな「ワン・ボタン・トゥ・プッシュ」体験を提供できます。この機能は、ボタンを押すと、ビデオシステムが適切な会議プラットフォームにSIP呼び出しを行うものです。

部屋に誰もいない場合、Management Suiteは、[Synergy SKYの占有センサー](#)のいずれかの統合から受信したセンサーデータ、もしくはCiscoデバイスの場合、内蔵センサーからこれを認識します。この情報は、各会議室の利用状況に関する分析データを提供するために使用され、予約を解除（キャンセル）するなどのアクションをトリガーするために拡張することもできます。

Synergy SKYは、カレンダーにあるすべての会議をモニターして、機能の不一致（ビデオエンドポイントが、予定されている会議プラットフォームに参加できない場合など）を確認します。互換性のないビデオエンドポイントがMicrosoft Teamsミーティングに招待された場合、Synergy SKY **CONNECT**ゲートウェイが提供され、ダイアルインの案内が、緑色の参加ボタンとしてビデオエンドポイントへ表示されるため、エンドユーザー体験とワークフローに中断や変更が生じることはありません。

Management Suiteは、すべてのビデオ会議を表示する会議管理インターフェースを提供し、管理者に潜在的な問題の事前通知を行うとともに、必要に応じて会議中や会議前にヘルプやアシストを提供するための機能を提供します。



管理ツールには、豊富な分析レポートとデータポイントが用意されています。こうしたレポートにより、企業がMicrosoft Teams、Webex、Zoomなどのさまざまな会議プラットフォームをどのように使用しているか、および会議室がどのように利用されているかについての情報が提供されます。すべてのデータポイントは、Power BIや Tableauなどのサードパーティツールに向けた、高度な統合に利用できるようになっています。

CONNECT for Government (政府機関向け)

Synergy SKY CONNECT for Government (政府機関向け) は、完全な自己ホスト型であり、ほとんどの仮想化環境 (VMware、Azure、AWS、GCP) 内にホストすることができるため、通話詳細記録 (CDR) や予約データをネットワークまたはプライベートクラウド内に保護することができます。これにより、クラウドサービスの拡張性と柔軟性を提供しながら、データのプライバシーが確保されます。

結論

Synergy SKYのソリューションは、カレンダー、会議室、ビデオ会議プラットフォーム全体のコラボレーションへの投資をサポートし、すべてのビデオ会議をシンプルに開催できるようにします。Synergy SKYは、ユーザートレーニングが不要で、効率的な管理ツールにより、ビデオ会議に関するあらゆる課題を解決する、持続可能で使いやすい、長期的なソリューションとなります。

このサービスは新しい会議プラットフォームではなく、ユーザーが意識して使用する必要もありません。

Synergy SKYは、既存のビデオセットアップを保護しながら、ワークフローを最適化し、合理化するサービスです。



* Source: Cisco Collaboration Devices Decision Maker Survey, December 2021 N=1539

** Microsoft Exchange on-prem, Microsoft O365, Microsoft 365 GCC, GCC-H, GCC-DoD, Google commercial and federal